

# 日本の海事博物館の現状とその特徴に関する基礎的研究

## BASIC STUDY ON PRESENT CONDITION AND CHARACTERISTIC OF THE MARITIME MUSEUM IN JAPAN

菅原 遼\*・大野真由美\*\*・畔柳昭雄\*\*\*

Ryo SUGAHARA, Mayumi OHNO and Akio KUROYANAGI

**要旨**：本研究では、日本の海事博物館のあり方を検討していくための基礎的研究として、全国各地の海事博物館を抽出し、立地分布や展示内容、利用状況、施設構成の観点から、建築的・展示的特徴を捉えることを目的に、文献調査やアンケート調査を実施した。その結果、日本全国で海事博物館50館が確認でき、船舶・水産を主とした展示内容や「春型・夏型」の入場者数の季節変動の特性を捉えた。また、海事博物館特有の展示品の展示・保存を考慮した施設構成の特徴を捉えた。一方、各博物館において「海事」の意味が曖昧に用いられており、その位置付けが不明確となっている状況を明らかにした。

**キーワード**：海事博物館, 展示内容, 入場者数, 季節変動, 施設構成

### 1. はじめに

#### 1.1 研究背景

四面環海の島国であるわが国では、古来より海を多面的に活用し、豊かな自然環境や海洋資源等の恩恵を享受することで発展してきた。しかし近年では、沿岸域の住民を含め、こうした海との係わりを日常生活において認識する機会が減少してきていることが指摘されている<sup>1)</sup>。

こうした中で、2013年4月に閣議決定された海洋基本計画<sup>2)</sup>では、「海洋教育の充実および海洋に関する理解の増進」が追記され、海洋産業及び海洋教育に関する文化・教育施設の連携や情報発信、その担い手の育成の重要性が指摘されている。

海洋教育を行う施設としては、海事博物館が挙げられ、わが国では、造船業の最盛期である1974年に開館した「船の科学館」に代表されるように、

全国各地に海事博物館が設置され、実物船や実機等を展示することで海洋教育に関する情報発信がなされてきた。しかし、2013年には「なにわの海の時空館」、2014年には「みちのく北方漁船博物館」が入場者数の低迷や財政圧迫等を理由に相次いで閉館し、その後の新設・増設等はなされていない状況にある。

一方、諸外国の海事博物館の動向に着目すると、イギリスやドイツ、韓国、アラブ首長国連邦等において国家主導による海事博物館の新設・拡充がなされている<sup>3)</sup>。また、こうした諸外国では国際海事博物館機構(ICMM)が組織され、海事博物館に関する明確な定義付けがなされ<sup>注1)</sup>、隔年で国際海事博物館会議が催される等、加盟博物館の連携強化が図られてきている。翻ってわが国の海事博物館を取り巻く状況をみると、必ずしも全国各地の

\* 正会員 日本大学理工学部海洋建築工学科 助手・博士(工学)

\*\* 非会員 日本大学理工学部海洋建築工学科 (現在 株式会社大林組)

\*\*\*正会員 日本大学理工学部海洋建築工学科 教授・工博

海事博物館の開設状況や展示内容の動向等は把握されておらず、今後、わが国の海洋教育の発展における海事博物館のあり方を検討していく上で、全国各地の海事博物館の動向を明らかにしていくことは今日的な急務の課題といえる。

海事博物館に関する研究報告としては、海外の海事博物館の動向に着目した岡本の報告<sup>3)</sup>や港湾区域における海事博物館の位置付けを検討した安原らの一連の研究<sup>4)~9)</sup>、個別の海事博物館の事例を取り上げた平賀<sup>10)</sup>や安黒<sup>11)</sup>の研究が挙げられるが、わが国の海事博物館を概観し、その展示内容や施設構成の動向を明らかにしたものは少ない。

## 1.2 研究目的

そこで本研究では、わが国の海事博物館のあり方を検討していく上での基礎的研究として、全国の子事博物館を抽出し、それらの立地分布や展示内容を把握することで海事博物館の現状を捉える。次いで、海事博物館の利用状況・展示内容・施設構成の関係を捉えることで、海事博物館の建築的・展示的特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

調査概要を表1に示す。本研究では、海事博物館の選定にあたり、全国博物館総覧に掲載されている3984館<sup>注2)</sup>の展示物及び収蔵物を把握した上で、造船、海運、港湾整備、水産、海洋開発、海軍等の海に関する展示室を設けている博物館を抽出した。次いで、各博物館に対してアンケート調査を行い、パンフレット及び平面図の有無、年間入場者数、月別入場者数(平成26年度)を把握した。合わせて、パンフレットやHP等から展示内容、入場者数、入場料、諸室数、述床面積を把握した。

## 3. 日本の海事博物館の現状

海事博物館の展示内容を表2に示す。文献調査の結果、日本全国の海事博物館50館を確認できた。

表1 調査概要

項目	調査内容
調査対象	海に関する展示室を設けている博物館50館
調査方法	文献調査
	アンケート調査
調査期間	2015年10月30日～2016年1月18日
調査項目	文献調査
	アンケート調査
アンケート回収率	34館/50館(回答率:68%)

表2 対象博物館及び展示内容の分類

NO.	博物館名	展示内容の分類							
		A 造船	B 船舶	C 海運	D 港湾整備	E 水産	F 海洋環境	G 海軍	H その他
1	厚岸町海事記念館		●			●			
2	えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館					●			
3	開陽丸青少年センター		●					●	
4	函館市北洋資料館					●			
5	広尾町海洋博物館		●			●			
6	北海道大学総合博物館 水産科学館		●			●			
7	余市水産博物館		●			●			
8	風待ち館		●	●					
9	岩手県立水産科学館					●			
10	宮城県長使節船ミュージアム(サン・ファン館)	●	●						
11	浦安市郷土博物館	●	●			●			
12	君津市漁業資料館					●			
13	黒沙資料館	●	●			●			
14	白浜海洋美術館								●
15	館山市立博物館分館(港の博物館)		●						
16	宮津歴史記念館		●			●			
17	大田区立大森 海宮のふるさと館		●			●			
18	第五福竜丸展示館		●						
19	船の科学館	●	●					●	
20	崎倉崎自然博物館					●			
21	記念館三笠		●					●	
22	日本郵船歴史博物館・水川丸		●	●	●				
23	横浜開港資料館		●	●	●				
24	横浜みなと博物館	●	●	●	●				
25	海運資料館	●	●	●					
26	佐藤小島民俗博物館(千石船展示館)	●	●			●			
27	石川県海洋漁業科学館		●			●			
28	かほく市海と 海の博物館		●			●			
29	北前船の里資料館		●						
30	清水港湾博物館(フルケール博物館)		●	●					
31	東海大学海洋科学博物館							●	
32	沼津市戸田造船郷土資料博物館	●	●						
33	焼津漁業資料館		●			●			
34	名古屋海洋博物館南極観測船ふじ		●					●	
35	海の博物館		●			●			
36	赤穂市立海洋科学館					●		●	
37	香美町立ジオパークと海の文化館		●			●	●		
38	神戸海洋博物館		●	●	●				
39	木江ふれあい郷土資料館	●	●						
40	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)	●	●			●			●
41	長門の造船歴史館	●	●	●					
42	海の科学館		●						
43	瀬戸内海歴史民俗資料館	●	●			●			
44	陸奥記念館								●
45	大三島海事博物館		●						●
46	海上自衛隊佐世保史料館		●					●	●
47	大分県マリンカルチャーセンター海洋科学館					●	●		
48	うるま市立海の文化資料館	●	●			●			
49	国営沖縄記念公園海洋文化館		●						●
50	対馬丸記念館								●
	合計	12	38	9	6	24	5	5	6

### 3.1 展示内容の分類と特徴

全国博物館総覧記載の展示物及び収蔵物に基づき各博物館の海に関する展示内容を整理すると、「造船・船舶・海運・港湾整備・水産・海洋環境・海軍・その他」の8パターンに分類できた<sup>注3)</sup>。

展示内容は、「船舶(38館)」、「水産(24館)」、「造

船(12館)」の順に多くみられ、日本の海事博物館の展示として、漁船模型や漁具等の水産関連の展示が主となっていることがわかる。

### 3.2 立地分布と展示内容の特徴

海事博物館の県別館数を図1、立地分布を図2に示す。図1をみると、北海道、千葉県、神奈川県に順に海事博物館が多く開設されており、北海道と千葉県では「水産」、神奈川県では「港湾整備」の展示が多くみられ、水産業や貿易港等の海に関する地域の特徴が展示内容に反映されていることが考えられる。また、図2をみると、海事博物館の多くは海沿いに立地しており、特に、貿易港が数多く立地し、水産業や造船業が発展してきた東京湾や瀬戸内海周辺に密集していることがわかる。

### 3.3 海事博物館の位置付け

日本の海事博物館の位置付けに着目すると、文部科学省では、博物館を「総合・科学・歴史・美術・野外・動物園・植物園・動植物園・水族館」に区分しており、その中に海事は含まれていない。

一方、海事思想の普及宣伝を行う日本海事広報協会では、海事を「造船・港湾・海洋環境・海運・マリンレジャー・水産」として扱っているが<sup>12)</sup>、アンケート調査に合わせて実施した学芸員へのヒアリング<sup>注4)</sup>では、『海事博物館の明確な定義付けがなされておらず曖昧な意味で用いられている』や『明確な定義付けはないが海事博物館として運営している』等のように、海事に関する統一された概念がなく、必ずしも明確な定義付けがなされていない状況がみられた。

## 4. 海事博物館の入場者数の特徴

海事博物館の入場者数に関する文献・アンケート調査の結果、年間入場者数は35館、月別入場者数は36館から回答を得られた<sup>注5)</sup>。本章では、以上の博物館を対象に入場者数の経年的な推移や季節変動に関する分析を行った。

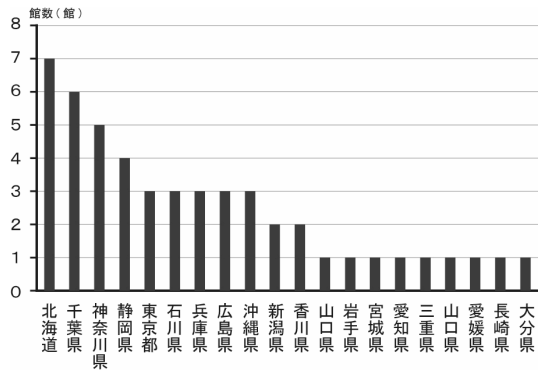


図1 海事博物館の県別館数

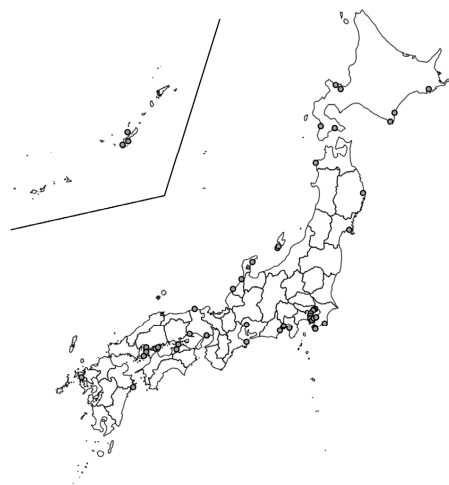


図2 海事博物館の立地分布

### 4.1 入場者数の推移

年間入場者数の推移を図3に示す。年間入場者数は海事博物館によって大きく差異があり、概ね1万人前後が多くを占めている。こうした中で、特に過去10年間(2005~2015年)の推移に着目すると、「No. 40: 呉市海事歴史科学館」や「No. 24: 横浜みなと博物館」、「No. 22: 日本郵船歴史博物館・氷川丸」、「No. 34: 名古屋海洋博物館南極観測船ふじ」等の館内外に実物船や戦艦を展示した博物館の年間入場者数が顕著に多いことがわかる。

### 4.2 入場者数の季節変動の特徴

海事博物館の入場者数の季節変動を図4に示す。月別入場者数から季節指数<sup>注6)</sup>を算出<sup>13)</sup>し、上位月に着目すると、8月と5月が上位月となる博物

館はそれぞれ 23 館と 17 館みられた。一方、下位月に着目すると、12 月と 1・2 月が下位月となる博物館がそれぞれ 19 館と 18 館みられ、冬季は季節指数が低いことがわかる。以上より、海事博物館の入場者傾向としては「春型」「夏型」の季節変動の特性を有しているといえる。

### 4.3 項目別にみた入場者数の特徴

平均年間入場者数と入場料の関係を図 5 に示す。海事博物館 50 館の入場料中央値は 300 円であり、中央値よりも高く、且つ、平均年間入場者数が 10 万人以上の博物館は 8 館確認でき、その内 7 館 (No. 19, 21, 22, 24, 34, 38, 40) では実物船展示がなされていた。また、実物船展示の有無による入場料中央値の違いに着目すると、実物船を展示している 22 館は 450 円、実物船を展示していない 28 館は 260 円であった。以上より、実物船展示には高い集客力がある一方、こうした実物船の維持管理に多額の費用がかかるため入場料が高く設定されていることが考えられる。

平均年間入場者数と延床面積の関係を図 6 に示す。これをみると、延床面積 2000 m<sup>2</sup> 以下の海事博物館は全体の約 6 割を占め、平均年間入場者数が 1~10 万人の範囲に集中していることがわかる。

平均年間入場者数と諸室用途数の関係を図 7 に示す。諸室用途数が展示室のみの博物館は 21 館確認でき、これらには平均年間入場者数 10 万人以上の博物館はみられなかった。一方、平均年間入場者数 10 万人以上の海事博物館 12 館の内、諸室用途数が 2 種以上の海事博物館は 11 館と比較的多くみられ、展示室(展示機能)だけでなく、ショップ(販売機能)やカフェ(飲食機能)等が付加的な用途が併設されていた。

## 5. 海事博物館の施設構成の特徴

海事博物館の施設構成パタンの分類と季節変動の関係を表 3 に示す。本章では、海事博物館にみ

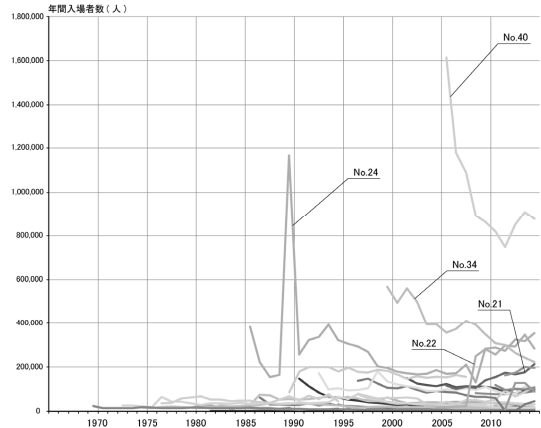


図 3 年間入場者数の推移

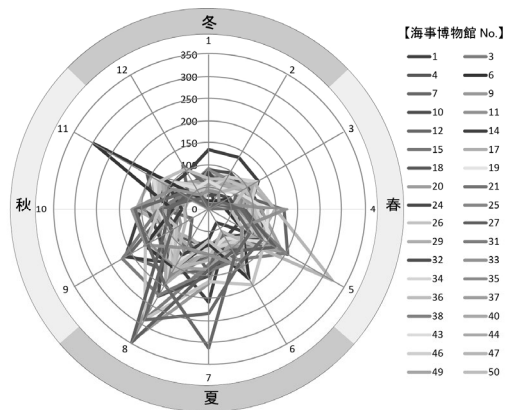
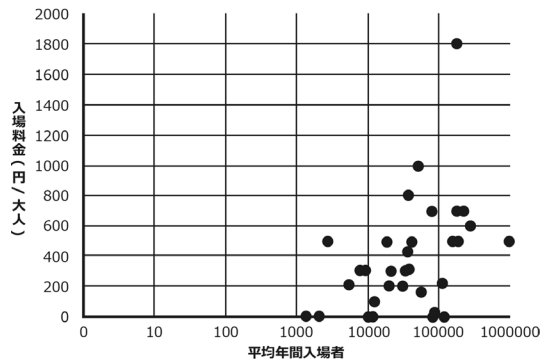


図 4 入場者数の季節変動



サンプル数	合計値	平均値	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
50	16,290円	325.8円	0円	100円	300円	500円	1,800円

図 5 平均年間入場者数と入場料の関係

られる施設構成と季節変動及び展示内容の関係を把握し、建築的・展示的特徴を捉える。

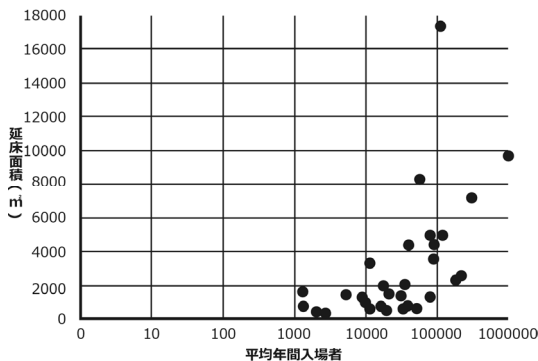


図6 平均年間入場者数と延床面積の関係

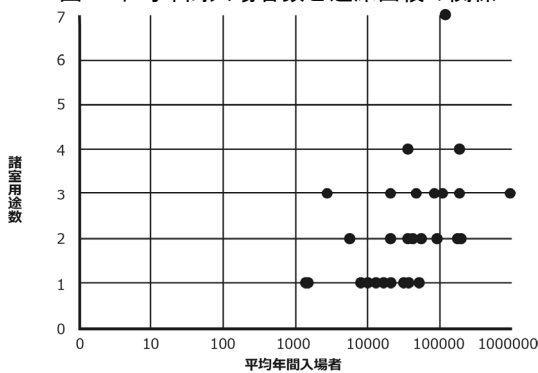


図7 平均年間入場者数と諸室用途数の関係

### 5.1 施設構成パターンの分類とその特徴

調査対象の海事博物館 50 館では、展示品及び収蔵品を展示している施設は建物及び実物船がみられた。ここでは海事博物館の施設構成を捉えるため、建物及び実物船の組み合わせから「建物型」「建物+実物船型」「実物船型」に区分し、加えて、「建物型」「建物+実物船型」に関しては、建物のヴォリュームや建物及び実物船の関係、実物船の展示方法等に応じて各々5パターンに分類した。

「建物型」は全体の約6割を占めており、その中でも、「建物一棟型」が18館確認できた。また、「建物+実物船型」の中でも「海上係留型」は全体の約1割を占めており、既存の船舶を展示物として活用することで集客力の向上を図っていた。

### 5.2 施設構成パターンと季節変動の関係

施設構成パターンと入場者数の季節変動の関係に着目すると、施設構成ごとに季節変動の特性を有

表3 施設構成パターンの分類と季節変動の関係

施設構成	施設名(季節変動タイプ)
建物一棟型	4 函館市北洋資料館(夏秋型)
	7 余市水産博物館(夏型)
	8 風待ち館
	9 岩手県立水産科学館(夏型)
	12 君津市漁業資料館(春型)
建物型	14 白浜海洋美術館(冬型)
	16 富津埋立記念館
	20 琵琶湖自然博物館(春秋型)
	23 横浜開港資料館
	29 北前船の里資料館(秋型)
	30 清水港博物館
	32 沼津市戸田造船船土資料博物館(春夏型)
	33 徳津漁業資料館(春秋型)
	37 香美町海の文化館(春夏型)
	39 木江ふれあい郷土資料館
	44 周防大島町立歴史記念館(夏型)
	46 海上自衛隊佐世歴史資料館(夏秋型)
	50 対馬丸記念館(夏型)
	6 北海道大学総合博物館 水産科学館(夏秋型)
	併設型
2 えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館	
5 広島海洋博物館	
31 東海大学海洋科学博物館(春夏型)	
複数棟型	28 かほく市海と港の博物館
	47 大分県マリナルチャーセンター海洋科学館(春夏型)
海上係留型	36 赤穂市立海洋科学館(春夏型)
	42 海の科学館
	13 黒沙資料館
陸上展示型	3 開港丸青少年センター(夏秋型)
	10 宮城県長巻船ミュージアム・サンファン館(夏型)
	19 船の科学館
	24 日本郵船歴史博物館・水川丸(春夏型)
	22 横浜みなと博物館・日本丸(夏秋型)
34 名古屋海洋博物館南極観測船ふし(春夏型)	
室内型	27 石川風海洋漁業科学館(春夏型)
	38 神戸海洋博物館(春夏型)
	40 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)(春夏型)
	41 長門の造船歴史館
	17 大田区立大森 海苔のふるさと館(春秋型)
室内+複数棟型	18 第五福丸展示館(春秋型)
	26 佐賀県小宗寄附博物館(夏型)
	45 大三島海事博物館
室内+野外展示型	48 うらま市立海の文化資料館
	49 国営沖縄記念公園海洋文化館(春夏型)
実物船型	15 館山市立博物館分館(港の博物館)(春夏型)
	25 海運資料館(夏型)
	35 海の博物館(夏秋型)
	11 浦安市郷土博物館(春秋型)
	43 瀬戸内海歴史民俗資料館(春秋型)
	21 記念艦三笠(春秋型)

していることがわかる<sup>注7)</sup>。特に、「建物+実物船型」の「海上係留型」では、6館中5館において8月に季節指数が最高値を示す「夏型」の季節変動の特性を有しており、屋外での実物船の展示方法が集客時期に影響を与えていることがわかる。

### 5.3 施設構成パターンと展示内容の関係

施設構成パターンと展示内容の関係を表4に示す。海事博物館の展示内容と施設構成の傾向を捉える



表 4 施設構成パターンと展示内容の関係

施設構成 展示内容	建物型					建物型+実物船型					実物船型
	建物一棟型	分館型	併設型	野外展示型	複数棟型	海上係留型	陸上展示型	室内型	室内+複数棟型	室内+ 野外展示型	
漁業	4 函館市北洋資料館 7 余市水産博物館 9 室蘭立水産科学館 12 君津市漁業資料館 16 富津埋立記念館 20 釧路崎自前博物館 33 焼津漁業資料館 37 香美町海の文化館	6 北海道大学総合博物館 水産科学館	1 厚岸町海事記念館 2 天里もつと土佐料館 5 広島尾道海洋博物館				27 石川島海洋漁業 科学館	15 釧路市立博物館 分館(港の博物館)	35 海の博物館		
港湾	8 風待ち館 14 白根海洋美術館 23 横浜開港資料館 29 北前船の星資料館 30 清水港海博物館 44 周防大島町立種興 記念館 50 対馬丸記念館		31 東海大学海洋科学 博物館 47 次分県マリンカルチャー センター海洋科学館	36 赤穂市立海洋 科学館		3 開陽丸青少年 センター	38 神戸海洋博物館 41 長門の造船歴史館				
船舶実物	46 海上自衛隊 佐世保史料館			42 海の科学館		19 船の科学館 22 日本郵船歴史 博物館 24 横浜みなと博物館 34 香吉屋海洋 博物館	40 呉市海事歴史 科学館	45 大三島海事 博物館		21 記念艦三笠	
木造船	32 沼津市戸田造船 郷土資料博物館 39 水江ふれあい 郷土資料館		28 かほく市海と港の 博物館	13 黒沙資料館		10 宮城県鹿長使節 船ミュージアム ツァンファン船	17 大田区立大森 海苔のふるさと館 18 栗三輪電丸 歴史館 26 佐渡国小不民俗 博物館 48 うるま市立海の 文化資料館 49 国産沖縄記念 公園海洋文化館	25 海運資料館	11 清安市郷土 博物館 43 瀬戸内海歴史 民俗資料館		

ため、対象とした海事博物館 50 館を基に、各館の展示内容を構成する展示物及び収蔵物を整理し、各館に共通した展示物や特徴的な展示物 19 項目を用いて数量化Ⅲ類による類型化を行った。次いで、各館の展示内容の類似性を捉えるため、サンプルスコアを用いてクラスター分析を行い、展示内容を「漁業」「港湾」「船舶実物」「木造船」の 4 つの類型(距離 1.5 以上)に分類できた。

各類型と施設構成の関係に着目すると、漁具等の漁業関連や開港資料・海運資料等の港湾関連を展示している博物館は、ともに「建物一棟型」に集中していることがわかる。また、船舶実物関連を展示している博物館は、実物船をドッグ内や近傍の水域に係留する展示形式が多くみられ、「海上係留型」に集中していることがわかる。さらに、木造船関連を展示している博物館は、「室内型」に集中しており、船の維持管理を意図した施設構成パターンを採用していることが考えられる。

以上より、海事博物館では、漁具や港湾資料等の室内展示を主としたものから実物船の展示・維持管理を意図した室内外の展示まで、海事博物館特有の展示品を考慮した施設構成パターンの採用がなされていることが分かった。

## 6. おわりに

本研究では、わが国における海事博物館を取り巻く現状とその建築的・展示的特徴を捉えた。その結果を以下に示す。

- ① 日本全国の海事博物館は 50 館確認でき、海沿い立地が多く、特に海に関する地域の特徴を反映した展示内容がみられた。
- ② 海事博物館に対する明確な定義付けは必ずしもなされていない。
- ③ 展示内容は船舶・水産を扱ったものが多く、特に実物船展示には高い集客性がみられた。
- ④ 海事博物館の入場者数は「春型」「夏型」の季節変動の特性がみられた。
- ⑤ 海事博物館の施設は建物と実物船で構成されており、「建物一棟型」が 18 館確認できた。
- ⑥ 海事博物館の施設特有の展示品を考慮した施設構成パターンの採用がなされていた。

以上より、今後、海洋教育の発展に向けた海事博物館のあり方を検討していくためには、現状、曖昧化されている海事博物館の考え方を明確化していくとともに、地域特有の海との係わりを考慮した展示品及び収蔵品を具備した展示内容を検討していくことが重要であると考えられる。

**補注**

注 1) 国際博物館機構は、海事博物館の定義を「海事博物館は巨大水域による船と紀行に関する展示物に特化した博物館。また海事博物館のサブカテゴリーとしては海軍と海の軍事利用に焦点を当てた博物館」としている。

注 2) 2014年6月1日掲載の博物館を対象とした。

注 3) 全国博物館総覧記載の展示物及び収蔵物に基づく展示内容の分類の基準を下表に示す。

項目	分類	展示物及び収蔵物
A	造船	船大工道具・造船技術
B	船舶	保存線・復元船・船舶模型(和船・漁船・帆船)
C	海運	航海資料・海運資料
D	港湾整備	港湾整備資料
E	水産	漁具・漁業資料
F	海洋環境	津波資料・海洋環境資料
G	海軍	海軍資料
H	その他	—

注 4) アンケート調査依頼時に各博物館の学芸員に対して電話によるヒアリングを行った。

注 5) 調査結果の内訳は、年間入場者数が文献調査 1 館・アンケート調査 34 館、月別入場者数がアンケート調査 36 館となっている。

注 6) 季節変動の表示方法として、下記数式によって計算される月平均を 100 とした場合の月毎の季節指数を用いた。

$$i \text{ 月の季節指数} = \frac{i \text{ 月の利用人数}}{\text{年間の利用人数}} \times 1200$$

注 7) 各博物館の入場者数は、気候学上の四季に基づき、春：3～5月、夏：6～8月、秋：9～11月、冬：12～2月に区分し、季節指数の高い上位 2 ヶ月を季節変動特性とした。

**引用・参考文献**

1) 阿部雄介：海洋観光や施策体系と国土交通省の取組み，沿岸域学会誌 Vol. 27 No. 4, 2015.  
 2) 総合海洋政策本部：海洋基本計画，2013.  
 3) 岡本洋：海事博物館の世界事情-中国・韓国での新設、国際会議等-，海友フォーラム HP <<http://k-senior.sakura.ne.jp/2015/151112-kaiyuu-okamoto-Museum.html>>，2015.  
 4) 安原健允：ヨーロッパの海洋・海事博物館・

水族館-産業観光と観光資源としての役割-，港湾経済研究 No. 39 pp. 177-188, 2000.

5) 安原健允：港湾区域の活性化と海洋・海事博物館・水族館の役割-カナダ・バンクーバーの水族館、海洋・海事博物館、アメリカ・シアトルの水族館-，港湾経済研究 No. 43 pp. 221-231, 2004.  
 6) 安原健允：港湾区域の活性化と海洋・海事博物館・水族館の役割-PFI 方式で建設された二つの水族館-，港湾経済研究 No. 44 pp. 215-223, 2005.  
 7) 安原健允：港湾区域の活性化と海洋・海事博物館・水族館の役割-東日本地域の現状・水族館を中心に-，港湾経済研究 No. 45 pp. 213-226, 2006.  
 8) 安原健允：港湾区域の活性化と海洋・海事博物館・水族館の役割-関東地域、特に 1 都 3 県の水族館を中心に-，港湾経済研究 No. 47 pp. 223-234, 2008.  
 9) 安原健允：アメリカ東海岸 3 都市(ボストン・ニューヨーク・ボルチモア)の港湾におけるウォーターフロントの環境-地域の活性化に果たす水族館、海事博物館の現状を中心に-，港湾経済研究 No. 48 pp. 141-148, 2009.  
 10) 新賀大蔵：新海の博物館の開館-海と人間のかかわりをテーマに-，関西造船学会らん 第 18 号 pp. 57-61, 1993.  
 11) 安黒達裕・菅原洋一：建築と展示から見た「海の博物館」の地域博物館の評価に関する研究-構想・計画・活動の段階的展開に着目して-，日本建築学会中国支部研究報告集 第 33 巻 pp. 1-4, 2010.  
 12) 日本海事広報協会：HP <[http://www.kaijipr.or.jp/collection\\_data/](http://www.kaijipr.or.jp/collection_data/)>，2016. 2. 28. 閲覧  
 13) 岡田光正・小林昭：建築計画決定法，朝倉出版 pp. 82-90, 1972.



菅原 遼（正会員）

日本大学理工学部海洋建築工学科  
(千葉県船橋市習志野台 7-24-1),  
昭和 62 年生まれ, 平成 24 年 3 月  
日本大学大学院理工学研究科博士  
前期課程(海洋建築工学専攻)修  
了, 現在同大学助手, 博士(工学),  
日本建築学会, 環境情報科学セン  
ター, 日本生活学会会員



畔柳 昭雄（正会員）

日本大学理工学部海洋建築工学科  
(千葉県船橋市習志野台 7-24-1),  
昭和 27 年生まれ, 昭和 56 年日本  
大学理工学研究科博士後期課程  
(建築学専攻)修了, 現在同大学教  
授, 工学博士, 日本建築学会, 環  
境情報科学センター, 日本都市計  
画学会会員



大野 真由美（非会員）

日本大学理工学部海洋建築工学科  
(千葉県船橋市習志野台 7-24-1),  
平成 5 年生まれ, 平成 28 年 3 月  
日本大学理工学部海洋建築工学科  
卒業, 現在株式会社大林組

## BASIC STUDY ON PRESENT CONDITION AND CHARACTERISTIC OF THE MARITIME MUSEUM IN JAPAN

Ryo SUGAHARA , Mayumi OHNO and Akio KUROYANAGI

**ABSTRACT :** This research aimed to catch placing by the museum of maritime affairs in our country in the current state and make the construction of facilities, the exhibition contents, the location number of visitors and the user's seasonal variation, etc. clear. As a result, there were no definitions in a museum of maritime affairs in Japan, and that it's used ambiguously became clear. Composition of facilities consists of a building and the real thing ship, of this combination, to be different, more, the difference in the number of visitors was seen. The exhibition contents were finding a suitable location of many museums of maritime affairs along a sea by location and the exhibition contents, and there were a lot of tendencies which exhibit the marine relation of the fishing, and were seen. A seasonal variation showed that the number of visitors peaks in August in particular much from spring to summer.

**KEYWORDS :** Maritime Museum, Exhibitions, Attendance, Seasonal Variation, Facilities Constitution